

2025
6



特別展「藤田嗣治×国吉康雄：二人の平行キャリア百年目の再会」関連
こどものイベント

「藤田と国吉 ふたりのちがい、ふたりのおなじ」

- 開催日時：2025年6月28日(土) 10:30～12:00
- 参加者：こども15名、保護者11名
- 対象：小学生
- 場所：企画展示室、レクチャールーム

- 概要
企画展示室で開催されている藤田嗣治×国吉康雄展を、鑑賞ガイドを使いながら鑑賞し、参加者全員で意見交換をしました。

■オリエンテーション

はじめに、藤田嗣治×国吉康雄展を担当した橋本学芸員から両作家の紹介がありました。みんなでスライドの作品を見ながら、「いまから約100年前、二人は日本に生まれましたが、藤田はフランスへ、国吉はアメリカへと渡り、それぞれの地で絵を描いていました」と教えてもらいました。展示会は第一章から第九章までに分かれており、二人がそれぞれの場所でのように活躍したのか、そして世界で起きた大きな戦争がどんな影響を与えたかについて詳しくお話がありました。



橋本学芸員のお話

◇参加者の感想（※原文をそのまま紹介）

- ・今まで絵は見て楽しんでいただけ、今日は考えて楽しめました。（小4）
- ・画家の気持ちや性格もわかったので、うれしかったです。（鑑賞ガイドにある）セリフを考えるのがおもしろかったです。（小4）
- ・絵の見方を深く考えたことがなかったので、とても楽しく過ごせました。（保護者）
- ・鑑賞ガイドがあることによって、子どもが「じっくり絵を見てみよう」という意欲がわきやすいイベントになっていたと思う。（保護者）

■展覧会鑑賞

今回は、鑑賞ガイドを使って鑑賞を行いました。まずはエドゥケーターと一緒に藤田嗣治《舞踏会の前》を鑑賞しました。作品の前に集まり、何が描かれているのか、絵の中の女性たちはどこにいるのかを皆で話し合いました。こどもたちは「周りに布がいっぱいあるから、布の部屋にいると思う」「どの服を着ようかなと思ってるところ」など、たくさんの意見が出てきました。鑑賞ガイドには展示されている作品の中から10点の作品が紹介されています。残りの9点はこどもたちが自分のペースで見まわり、展示室では鑑賞ガイドに向かって、熱心にメモをとるこどもの姿がみられました。



エドゥケーターと作品を鑑賞



じっくり鑑賞中

■みんなで意見交換

鑑賞の後には、再びレクチャールームに集まり、鑑賞した作品について意見交換を行いました。最初に、こどもたちから「鑑賞ガイドの吹き出しに書いたことを発表したい」と提案があり、順番に発表が始まりました。例えば、藤田嗣治《ラ・フォンテーヌ頌》については、絵に登場するキツネの様子や食べ物をもとに、キツネたちの会話を想像して、楽しく発表してくれました。また、藤田と国吉の自画像を見て、「藤田さんはこっちを見ていて、自分のことを格好良いと思っているのかも」「国吉さんは絵を描くことに集中しているけど、心の中では楽しんでいと思う」など、絵を見ながら、二人の性格の違いを感じとっている様子が伝わってきました。

■ふりかえり

最後に、こどもたちの発表と質問を受けて、橋本学芸員が解説を加えました。国吉の絵に描かれている「手形」や「ぶどう」の意味について、藤田のファッションについても教えてくれました。海外で活躍した二人の画家は、眼鏡にヒゲで見た目は少し似ているけれど、絵にはそれぞれの特徴があり、こどもたちはしっかりそれを感じとり、発表してくれました。

この日は、展示室でも意見交換の場でも、こどもたちは最後まで集中して活動に取り組み、終始にぎやかで活発な鑑賞の時間となりました。もっと鑑賞したい、意見交換したい気持ちを少し抑え、イベントは終了となりました。なかにはイベント後すぐに展示室に向かう参加者の姿もあり、関心の高さがうかがえました。



橋本学芸員とふりかえり

□担当学芸員からのコメント

少し難しいテーマでしたが、藤田の絵の技巧にこどもたちも感心し、国吉の絵に込められたキーワードと一緒に解説することに挑戦することができました。

最後の意見交換の場では、こどもたちから様々な意見が飛び出しました。まさに、そこを感じてほしかった、すごい！と思うこともあれば、考えたことなかったような斬新な意見にも驚くこともありました。100年も前に描かれた作品からも、見ているみんなの心が動くような発見があれば嬉しいです。（橋本学芸員）